



# 遠晴の丘

由利本荘市立子吉小学校学校だより 第44号 令和3年2月17日発行

## <教育目標>

「ふるさとを愛し 明るい未来を切り拓く 子どもの育成」

～ かしこく ゆたかに たくましく ～

V:1年の成長と感謝

成長の跡を確かめ、

感謝の気持ちを育てよう。

## 「天災は忘れた頃にやってくる」

13日(土)の夜の地震は揺れが強く、長く続き、10年前の東日本大震災を思い起こさせるものでした。テレビやスマホから聞こえる地震速報音で鳥肌が立ったのは、私だけではなかったと思っています。学校では子どもたちと一緒に避難訓練を行っているはずなのに……。

今回の地震で地域に大きな被害がなかったことは何よりでした。しかし、いつ、どこで、何が起きるかは予測できませんので、自分たちの命を守る行動については日頃から話題にしていなければなりませんね。

## 第3回学校運営協議会(2/10)

10日(水)、今年度最後の学校運営協議会を開催しました。5校時の授業を一巡していただき、その後、今年度の取組や行事・事業について教職員が反省・評価した経営反省資料、保護者にご協力いただいた「学校教育アンケート」の結果を基に協議を行いました。

委員の皆様からは、以下のような意見が出されました。

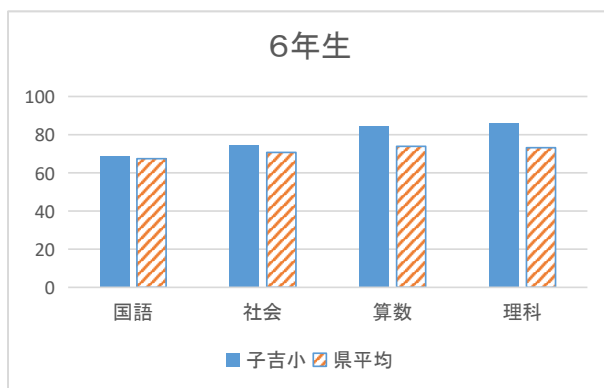
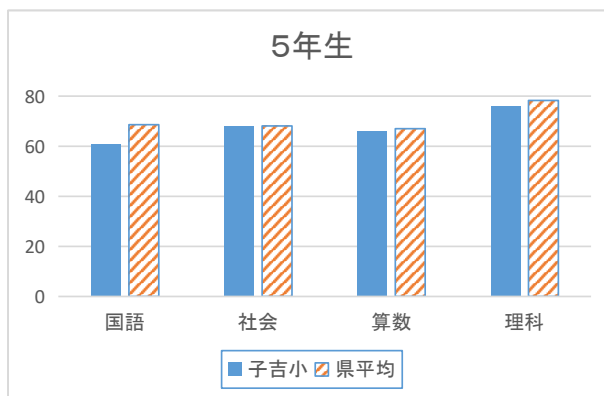
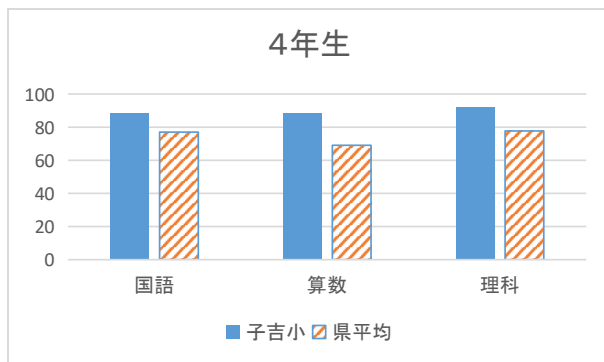
- ・熱心でわかりやすい、参加型の授業が有り難い。
- ・子どもの意見を聞こうという先生方の姿勢が見られた。
- ・子どもたちは明るく楽しそうに授業している。読み聞かせにも反応がよい。言葉に敏感なよい子どもたちである。10月から読み聞かせを行って、元気をもらっている。サポーターとのつながりからもやる気、温かさ、熱気をもらっている。もっともっとつながることができるのではないかと考えている。
- ・稲作体験の要望に応えられてよかったと思う。今後も継続していきたいと思っている。
- ・何か交流を……と思っていたが、コロナで残念だった。以前4・5年生だったと思うが子吉歴史探訪のような学習があったので、ぜひ続けてもらえればと思う。
- ・コロナの影響がかなりあったのではないかとと思われるが、今後の糧にしてほしいと思う。
- ・先生方が一人一人語り合える教師集団になっていると思われる。
- ・先生方、PTAが一体となって協力できていると感じている。
- ・親は好感を持っている。子どもを通じて学校が一生懸命やってくれていることが伝わってきているからだと思う。

心温まる言葉をたくさんいただきました。これも一つの学校評価として受け止め、さらに「かしこく ゆたかに たくましく」バランスのとれた子どもの育成に励んでいきたいと思っています。学校運営協議会の皆様には、お忙しいところお集まりいただきありがとうございました。



## 県学習状況調査結果より

昨年12月2日に4～6年生を対象に行われた秋田県学習状況調査の結果をお知らせします。詳細についてはPTA学年懇談で説明しますので、疑問な点については学級担任にお尋ねください。



### 【各教科の平均通過率より】

- ・4年生は、3教科いずれも県平均を大きく上回りました。
- ・5年生は、社会・算数が県平均程度で、国語・理科が県平均を下回りました。
- ・6年生は、国語・社会は県平均を上回り、算数・理科においては大きく上回りました。
- ・算数はTTを取り入れ、子どもの習熟度に応じた授業を工夫して行っているため、ある程度の成果が出ていると考えています。
- ・高学年では、昨年度と比較して国語に伸びがあまり見られません。

### 【質問紙の結果より】

- ・「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と回答した子どもの割合を見ると、「学校の勉強がよくわかる」96.5%、「学校が楽しい」95.5%と高い数値となっています。この結果から、子どもたちはある程度勉強に自信をもち、学校生活を楽しむことができていると考えています。
- ・「自分にはよいところがあると思う」90.7%となっています。私たち職員は、子どもたちの主体性を育みながら自己肯定感を高められるようにと取り組んできました。この結果から、ある程度の成果はあったものと考えています。
- ・「読書は好きだ」91.9%と高い数値となっています。普段の図書館の利用状況を見ても感じていましたが、この気持ちを大事にしていきたいと考えています。
- ・各教科の中で「国語の勉強は好きだ」が75.4%と一番低い数値となっています。

特に高学年で「不得意」と感じている子どもが多く、学年が上がるにつれて苦手意識が強くなる傾向が見られます。この課題解決のために正しく読む力を身に付け、国語で学んだ力を様々な場面で活用するように、学校全体で重点的に取り組んでいきたいと考えています。

4～6年生の県学習状況調査一つで子どもたちの学力すべてを把握できるわけではありませんが、秋田県の子どもに求めたい資質・能力がどの程度身に付いているかを知ることができます。これを一つの結果と受け止めて分析し、不十分な部分に対策をしていく必要があります。学校ではその一年だけでなく1年生からのこれまでの積み重ねがどうだったのか全教職員で反省し、自分の授業の改善を図っていきます。

今年度身に付けなければならない「資質・能力」をきちんと身に付けて、子どもたちが自信をもって次のステージに立てるよう年度いっぱい指導を継続していきたいと考えています。